

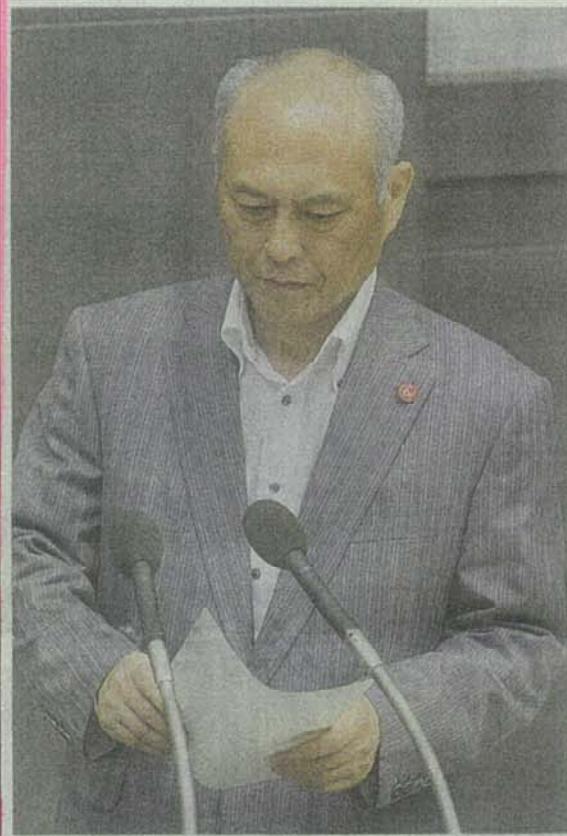
舛添都知事の辞職決定

「都政停滞耐え難く」

東京都議会は15日午後、本会議が開かれ、舛添都知事(67)の辞職に全会一致で同意、21日付の辞職が正式に決まった。舛添氏は本会議の最後に「これ以上都政の停滞を長引かせることは耐え難く、私が身を引くことが一番と考えた」と辞職の理由を述べた。

後任選挙、来月末にも

知事選は7月14日告示、31日投票日を軸に調整が進む見通し。7月21日告示、8月7日投票日の可能性もある。各党は後任候補選びを本格化させた。



東京都議会本会議の最後にあいさつに臨む舛添要一知事＝15日夜

の選挙は、次期開催都市としてふさわしくないと考えた」と改めて釈明した。21日付の辞職は20、21日に副知事が交代するため、新体制発足を待ったとみられる。記者会見する意向は「検討している」と述べた。

- 舛添氏発言のポイント**
- 就任以来、東京を世界一の都市にするため全力を尽くしてきた
 - 反省と心残りの念は尽きないが、全て自らの不徳の致すところ
 - リオ五輪を控える中で、選挙は次期開催都市としてふさわしくなく、避けなかった
 - これ以上都政の停滞を長引かせるのは耐え難く、私が身を引くことが一番と考えた

依存せぬ道は

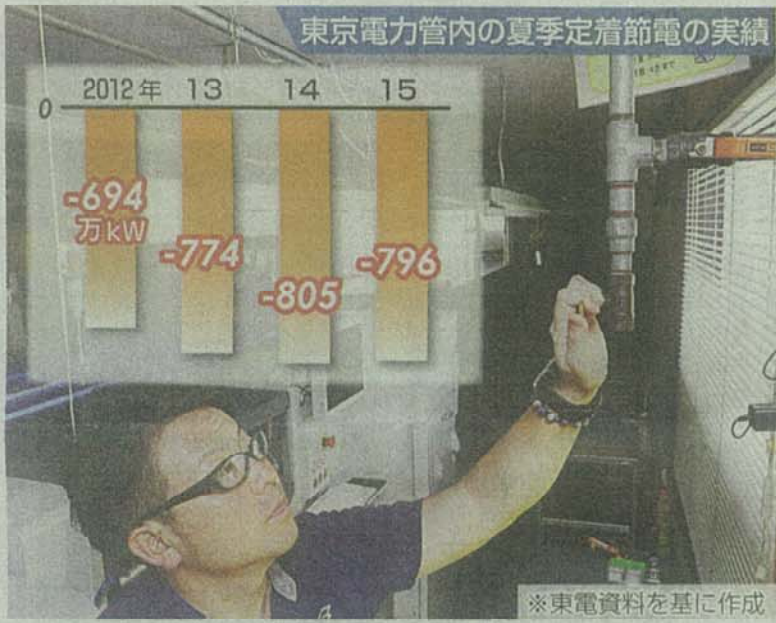
原発は必要か

電気使用量が増える夏の首都圏で大きな変化が起きている。東京電力福島第1原発事故を境に、需要のピーク時に必要となる出力が約800万kwも減少しているのだ。

東電はこの数字を「定着節電」と呼ぶ。東電会長の数土文夫氏も「必要となる出力が約800万kwも減少しているのだ。落ち込みは構造的なものと言われている。これは柏崎刈羽原発の全7基分に相当する。この状況を生んだのは節電の効果だ。意味だ。」

柏崎原発の全基分減少

これは柏崎刈羽原発の全7基分に相当する。この状況を生んだのは節電の効果だ。意味だ。見方を変えれば、事故後は電力が不要になっているともいえる。東日本大震災では、福島県や東京湾岸の火力発電所も被災し、特に東日本の電力供給ができたというグラフ参照。



東京電力管内の夏季定着節電の実績

基本料金を決める基準となる契約電力は福島事故前の10年比で、774億kw時減の9520億kw時になった。政庁は4月、成長戦略の新たな目標として強化する分野の一つに「省エネ、再エネへの投資拡大」を打ち出した。

【第2弾】本日開催

AKB48選抜総選挙ミュージアム

新潟サテライト

16 thu. 13:00~20:00
17 fri. 11:00~20:00
18 sat. 11:00~22:00
19 sun. 11:00~18:00

AKB48、NGT48を始めとする、全チーム立候補者ポスター展示

AKB48選抜総選挙ミュージアムオリジナル限定グッズを販売

がんばれ NGT48!

「需要側が電気の消費量を調整すること、出力が変動すると電気の増減には十分に対応でき、停電は起きない」と語る。(文中敬称略)

これは「小さな節電の積み重ねが重要だ。すべての人が当事者意識を持つべきだ」と指摘する。中小企業や家庭で、省エネ性能の高い家電製品や設備に移行するだけでも効果がある」と期待する。

2016.6.16(木)